

家庭科部会

谷内 香子

家庭科で心に残ったこと—子どもの学びの声—

五・六年生の二年間の家庭科学習を終えて心に残ったことや学んだことを子どもたちに書いてもらいました。

「家庭科の授業は、生活の中で自然と生かすことができました。だいたいの教科だと『〇〇を家でやってみるといいです』と言われても、『めんどくさい!』と思ってやりませんでした。でも家庭科の授業で習ったこと、例えば、食品添加物は体に悪いという事が分かって、少し気をつけながらお母さんと一緒に買い物をすることができました。授業が分かりやすかったので身に入り、生活に生かすことができました。家庭科ではもったくさんの生活に役立つことを教えてもらいました。」

「ぼくが一番印象に残っているのは、

とを学びましたがそういうのは得意でした。」

家庭科の学習では、単なる生活の技能を習得するだけではなく、学習をしながら子どもたちはたくさんの生き方や関わりについて学びます。調理実習の事前の班ごとの計画では意見を出して話し合い、そして実習ではお互いを尊重しながら協力して仕事を進めなければなりません。そのためには教師が仲間外れや独断を許さない集団づくりを常に築いていく必要があります。これはどんな時でも同様です。

人間は、生きていくために動物と植物を食べています。それらは地球上の自然界を大きく二つの仲間に分けた生き物たちです。人間は動物ですが人間と自然界は命でつながっている大切な関係であることを、事あるごとに私は子どもたちに気づかせています。このことは、食べものに限らず「衣・住」にも通じていると考えてもよいでしょう。3・11東日本大震災・原発事故以後、「命とくらしを守る家庭科」の課題がまた見えてきました。

(共同研究者)